

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 京都府 】

学校名【 京都府立京都八幡高等学校（北） 】

1 実践テーマ	【 III 】
2 実施対象者	(1) 本校のレスリング部員 9名 地域のダウン症者 10名 (2) ソフトボール部員 9名 八幡支援学校生徒 6名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 ( ) ② 行事名 ( ) ③ その他 ( 部活動 ) (2) 地域における活動 ① イベント名 ( ワクワクレスリング教室、 ソフトボール部八幡支援学校合同練習 ) ② その他 ( )
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 障がい者の自立・社会性を目指す＝ダウン症児者と親、他人との肌の触れ合いによる密接な絆、交流を強め、心身の発達を目指す</li> <li>・ ソフトボール競技を通して両校生徒の交流を深めるとともに、基礎的な技術向上を図る。</li> </ul>
5 取組内容	<p>(1) レスリング</p> <p>①アップ運動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 二人組になり、様々な運動を行う。体を温め怪我を防ぐこと、体力を向上させることを目的とする。</li> </ul> <p>②打ち込み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 二人組になりタックル練習を行う。ダウン症の生徒と高校生が組む。ダウン症の生徒同士で組むときには、必ずその組に高校生が横に付くようにしている。</li> <li>・ 構えやタックルの技術指導を行う。理解できるまで繰り返し指導を行い、上手くできたときにはハイタッチ等で喜びを共有する。</li> </ul> <p>③練習試合</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2 チームに分かれマット一面を使用し、高校生も入り練習試合を行う。試合前にはチームごとに円陣を行い、気合いを入れる。試合中、待っている人は自分のチームの応援を行う。</li> </ul> <p>※審判もつけ、怪我をしないよう危険なシーンは早めに止める。</p>

	<p>○写真</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: center;">打ち込みの様子                      練習試合の様子</p> <p>(2) ソフトボール</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アップから守備練習、打撃練習等の基礎を合同練習の形で行い、技術的なアドバイスをしたり、プレーを褒めたり励ましたりといった声かけを通じて、相互の交流を深める。</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div> <p style="text-align: center;">集合                      打撃練習                      守備練習</p>
<p>6 主な成果</p>	<p>(1) レスリング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 10年以上、月1回の練習を継続して行なっているため、仲間意識が高く強い絆で繋がっている。ダウン症の生徒や保護者が高校生の試合に応援に来てくれることもある。</li> <li>・ レスリングを通じ交流を深め、個々の良さを認め合うことができた。ダウン症の生徒の一人一人のペースを把握し、個々に合った指導や声かけを行なうことができていた。</li> <li>・ 高校生は優しいだけでなく、危険なことやルールで違反となることはダウン症の生徒が理解するまで何度も繰り返し注意し、安全に競技を行なうことへの意識が高まっていた。</li> </ul> <p>(2) ソフトボール</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 支援学校の生徒と一緒に練習に取り組むことで、障がい者との身近なふれあいや、声かけの仕方や一人一人の特性に配慮した指導の工夫など、合同練習でなければ得られない経験ができた。</li> </ul>
<p>7 実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>(1) レスリング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 練習を重ねていく中で、高校生がダウン症の生徒に指導を行なうようにしている。</li> <li>・ グループやペアで練習を行い、個別に指導を行う。また、相手を替えながら多くの選手と行うことで、その生徒の性格やレスリングスタイルなど個性を理解させる。</li> </ul> <p>(2) ソフトボール</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 支援学校生徒の技術レベルに合わせた練習メニューを組み立て、実際に行う中では、無理をさせることがないように状態の観察に</li> </ul>

	留意して取り組んだ。
8 主な課題等	<p>(1) レスリング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ レスリング競技という中での交流のため、レスリング部員以外の生徒が参加をしにくい。また、知識が無いと怪我等の事故が起こるリスクが高くなる。</li> <li>・ ダウン症の生徒の多くは高校生より年上である。高校生の言葉かけを注意していく必要がある。お互いの存在に感謝していけるような関係を築いていくことが大切である。</li> <li>・ 年々、ダウン症の生徒が減ってきている。原因としては、初年度から年齢層が高く、活動が困難となり引退する生徒がいる。また、何年も継続している生徒がほとんどで新規にクラブチームに入ってくる生徒がいない。</li> </ul> <p>(2) ソフトボール</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 支援学校生徒は男子であり、女子部員が指導する際の距離感の取り方に苦慮する様子が見受けられた。</li> <li>・ パニックを起こした生徒への対処の仕方など、事前には想定していなかった反応に戸惑う様子が見られた。</li> </ul>
9 来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 両競技とも、今後さらに課題点を改善し、長期に渡り継続していきたいと考える。</li> </ul>